

月刊 圓一フォーラム

# EN-ICHI FORUM

11

2020 no.360

政策オピニオン 東京理科大学教授 田沼靖一

## 「死の遺伝子から観た」人間の「生・老・死」の意味





## Contents

- 
- 3 巻頭言  
父親の家庭関与—母子の視点からみた父親の役割 愛知教育大学名誉教授  
埼玉学園大学特任教授 尾形和男
- 
- 4 政策オピニオン 生命科学から「死とは何か」を考える  
「死の遺伝子」から観た人間の「生・老・死」の意味 東京理科大学教授 田沼靖一
- 
- 10 政策情報レポート  
教育による地方創生—地域との協働による「高校魅力化」
- 
- 12 情報ファイル  
小学校の暴力行為は4万3千件超、いじめも低学年で増加  
暮らしやすいまちづくりのために「友人・知人で助け合う」3割
- 
- 14 海外情報  
夫婦間で形成されるアタッチメントの意味
- 
- 16 海外情報  
アメリカで社会問題化する行方不明児童
- 
- 18 政策トピック  
科学技術は国と社会にどのように貢献するか 大阪大学ナノサイエンスデザイン  
教育研究センター特任准教授 下司雅章
- 
- 20 教育現場の声  
少人数学級の効果と課題
- 
- 22 政策動向  
主権者教育の推進に向けた中間報告 他
- 
- 23 Book Review
- 
- 24 世界と日本と家庭  
極度の貧困で暮らす子供3億5600万人
-

# 父親の家庭関与 —母子の視点からみた父親の役割



愛知教育大学名誉教授／埼玉学園大学特任教授 尾形和男

「イクメンプロジェクト」が平成22年6月17日厚生労働省から発表されて以来、イクメンという言葉は次世代を担う父親像の象徴として現在に至っているが、本来は母親中心の子育て社会に男性の参画の必要性を訴えて派生したものである。それは、時代の流れに伴う女性の高学歴化、ジェンダー観の変化、女性の生き方の変化が進行する中で多重役割を負いながらも社会で生き生きと活躍する女性が増加している反面、子育てにおいては孤立した育児、育児不安、児童虐待などの問題を抱えた女性が多いというパラドックスを反映した言葉でもある。

子育ての諸問題は乳幼児期を中心とした時期に生じやすく、子どもの成長・発達に極めて大きな影響をもたらす。またこの時期はライフステージの中でも親の心身の負担が大きいため夫婦のコミュニケーションに基づく協同作業が不可欠であり、特に父親の関わりが重要である。しかし最近の父親の家事・育児参画度は低く、6歳未満児を持つ父親の1日当たりの家事・育児時間、育児休業取得率共に、子ども・子育てビジョン(2010年閣議決定)の目標値を大きく下回っている。しかも両取り組み共に諸外国との間に大きな差があり、我が国の子育て環境が十分な状況とはいえない。

父親の家庭関与の重要性について改めてみると理由が幾つか挙げられる。まず第1に指摘できるのは父親も母親同様に子育てを行うことが出来る

ということである。父親が子育てにあたると子育てホルモン(オキシトシン)の分泌が促進され、母親に引けを取らない養育が出来ることが証明されている。エンゲロスメントといわれる育児にのめり込む父親の場合、子どもとの間に良い関係が形成され、子どもの成長・発達に良い影響をもたらすことも指摘されている。これは今まで多くの父親が取り組んで来ていない。

次に家族システムの視点から見て母親への精神的サポートの重要性がある。コミュニケーションを中心とした父親の関わりは良好な夫婦関係を形作り、それが母親の精神的ストレスを軽減し、子どもの養育にプラスの影響をもたらす。しかも、このような家庭の子どもの精神的機能(コミュニケーション能力、共感性、自己統制力など)の発達も良好であり、同時に健全な家族機能も形成され家族に与える影響は多大である。

子育ては本来「人育て」であり極めて重要な取り組みである。そのための子育て環境の基盤づくりとして、父親の家事・育児参画の推進と良好な夫婦関係形成、そして子どもの成長・発達の促進という重要な繋がりを今一度確認する必要がある。並行して、多様化する労働形態に対応し、子育てに参画しやすい労働環境作りや子育てを推進のための諸制度の柔軟な改革なども求められる。